

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

47号
2021
4.2

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されました。鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。



春の開園時間延長中！ 5月16日(日)まで

開園時間を18:30まで延長します！（入園は18:00まで）※本年は「桜のライトアップ」は行いません。

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！見頃の植物情報を中心につぶやいています。



第29回 球根ベゴニア展

○期間：3月27日(土)～4月11日(日)
○場所：観覧温室(ジャングル室)
○内容：球根ベゴニア約300鉢を展示
◆4/4(日)球根ベゴニア展関連 講習会
観覧温室(特別展示室) 13:30～
「園内における球根ベゴニアの栽培方法」
講師：植物園職員 ※定員：先着20名

第41回 京都盆栽展

○期間：4月2日(金)～4月5日(月)
○場所：植物園会館1階展示室
○内容：盆栽約30席、80点を展示(即売あり)

第1回 ハス講習会

○日時：4月10日(土) 13:30～15:00(受付13:00～)
○場所：植物園会館2階研修室 ※定員：先着60名
○内容：「大賀一郎博士と蓮～孫文蓮から～」
○講師：金子明雄氏(京都花蓮研究会副会長、元園長)

東洋蘭講演相談会

○日時：4月11日(日) 13:30～15:30(受付13:00～)
○場所：植物園会館2階多目的室 ※定員：先着60名
○内容：寒蘭、春蘭など東洋蘭全般の栽培を中心とした講習会

第16回 桜散歩

○日時：4月16日(金)、17日(土) 13:00～
4月18日(日) 15:30～
○場所：植物園会館前集合 ※定員：先着30名
○内容：園内のサクラを職員が案内 ※1時間程度

「水曜ミニガイド」 植物園認定が 仆がご案内！
※当面の間 水曜ミニガイドは中止させていただきます。

「園長と園内散歩」
4月18日(日) 何処を歩くかはお楽しみ！
植物園会館前集合：午後2時スタート！

スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定！

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成！
「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察！

第9回 サトザクラ展

○期間：4月16日(金)～4月18日(日)
○場所：植物園会館1階展示室
○内容：園内にあるサトザクラを中心とした切り枝を展示
◆4/18(日)サトザクラ展関連 講習会
植物園会館2階研修室 13:30～15:00(受付13:00～)
「浮世絵に見る江戸の花見(仮)」※定員：先着60名
講師：佐藤知乃博士 亜細亜大学准教授

バラ栽培講習会

○4月17日(土) 13:00～15:00(受付12:30～)
「春バラの手入れ」植物園会館2階研修室
※講師：日本ばら会京都部会員
※参加費：200円(別途入園料が必要)
※定員：先着60名

私の好きな木20周年記念展

○期間：4月23日(金)～4月25日(日)
○場所：植物園会館1階展示室
○内容：私の好きな木20周年を記念してこれまでの取り組みなどを総括した展示

◆4/25(日)私の好きな木20周年記念展 関連講演会
植物園会館2階多目的室 13:30～15:00(受付13:00～)
松谷名誉園長による講義(予定)※定員：先着60名

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説！
毎週土曜日は・・・
植物園会館前集合：午後1時スタート！

「植物園ガイド」が植物案内！
～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増！～
① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
③ ガイドは1時間程度。(無料)
* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
■ 電話075-701-0141

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです！
大人1000円 高校生750円
・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



⑫ ジャボチカバ

フトモモ科。ブラジルやアルゼンチンなどに分布。白い花やその後に来る濃い紫色の果実が直接幹に付くことが大きな特徴。果実は直径2~3cmほどの大きさをブドウの巨峰にそっくり。味もブドウに似ていて果肉は甘酸っぱく軟らかい。

⑪ ラショウモンカズラ

シソ科。本州、四国、九州などに分布。和名の由来は、大きくふっくらとした花の感じを、羅生門で渡辺綱が切り落とした鬼女の腕に見立てたものとされる。花冠の長さは4~5cmであり、シソ科の植物としては大きな花であり、よく目立つ。

⑩ メディニラ・マグニフィカ

ノボタン科。フィリピン原産。茎の先端やその付近の葉腋から長い花茎を下げ、長さ10cmほどの淡紅色の美しい苞をつける。その先にコーラルピンクの小花を多数つけ、長期間咲き続ける。別名はオオバヤドリノボタン(大葉宿野牡丹)。

⑨ スノーフレーク

ヒガンバナ科。オーストリアやハンガリーなどヨーロッパ中南部原産。まだ寒さが残る早春から開花する姿はまるで残雪のようで、名前の「スノーフレーク(雪片)」はそれをよく表している。花と葉の外観から「スズランズイセン」の別名もある。

① ベニバナトキワマンサク

マンサク科。中国原産。日本では限られた地域で自生が確認されているトキワマンサクの変種。花は枝先に4~8個集まって咲き、満開になると株全体が紅色で覆われ、白花のトキワマンサクに比べると華やかで非常に目立っている。

② ショカツサイ

アブラナ科。中国原産。三国志で有名な諸葛亮孔明(しよかつりょうこうめい)が兵士の食料とするため本種を栽培し、広めたことが名前の由来とされる。花の色などから「ムラサキハナナ」の別名でも知られている。繁殖力が非常に強い。

③ ナルキッスス・ブルボコディウム

ヒガンバナ科。フランス南西部、ポルトガル、スペインなどに分布。小型原種スイセンの代表的な種類。早春に花冠の広がった黄色いペチコートのような花が1茎に1花咲く。その外観から「ペチコートスイセン」とも呼ばれている。

④ フジモドキ

ジンチョウゲ科。中国原産。漢方では花や根を利尿薬として使用。小さな花を無数に付けるので、盆栽に使われることが多い。チョウジザクラの別名があるが、桜の仲間のチョウジザクラとは別である。新枝には細毛がある。

⑤ クリスマスローズ

キンポウゲ科。地中海沿岸に分布。欧米では冬咲きのヘレボルス・ニゲルのみを「クリスマスローズ」、春咲きのオリエンタリスを「レンテンローズ」と呼ぶが、日本では全てのヘレボルス属と園芸品種を総称して「クリスマスローズ」と呼んでいる。

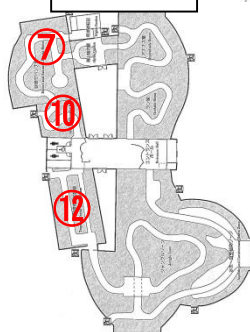
⑥ ミツバツツジ

ツツジ科。関東地方から近畿地方東部の太平洋側に分布。枝先に3枚のひし形の葉をつける落葉(一部常緑もあり)種が、一般にミツバツツジ類と呼ばれており、紫色の花を咲かせ、開花後、あるいは同時に葉が出るのが特徴。



写真はコチラ!

観覧温室



⑧ ブルビネラ・フロリブンダ

ワスレグサ科。南アフリカ原産。日本ではもっとも普及している種で、草丈1mくらいになる。花は鮮黄色である。長く直線的な花茎の上端に100輪内外の小さな花を密集させる。球根植物として取り扱われているが、根は細く乾燥に耐える。

⑦ プセウドボムバクス・エリプティクム

アオイ科。メキシコからエルサドバドルに分布。花は非常に長い雄しべが密集して美しく、その形状がヒゲを剃る際のクリームを塗るブラシに似ていることから、英語では「シェービング・ブラッシング・ツリー」と呼ばれている。

